

Title	ベトナム語における方向動詞の統語的性格について
Sub Title	Syntactic characteristics of Vietnamese directional verbs
Author	三上, 直光(Mikami, Naomitsu)
Publisher	慶應義塾大学言語文化研究所
Publication year	2014
Jtitle	慶應義塾大学言語文化研究所紀要 (Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies). No.45 (2014. 3) ,p.297- 315
JaLC DOI	10.14991/005.00000045-0297
Abstract	
Notes	研究ノート
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069467-00000045-0297

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ベトナム語における方向動詞の 統語的性格について

三 上 直 光

1. はじめに

単語が形態変化を欠き、文の構成素の文法関係が主として語順によって表されるタイプの孤立型言語においては、品詞や言語単位の認定は決して容易な作業ではない。本稿では、孤立型言語を代表するベトナム語のいわゆる方向動詞を主要な例として、この問題について考える。

取り上げる動詞は、đi「行く」、đến「着く」、về「帰る」、lên「上がる」、xuống「下りる」、vào「入る」、ra「出る」、sang「渡る」などの方向動詞と授与動詞の cho「与える」である。これらの動詞はいずれも単独で本動詞として働くほかに、その語彙的意味が抽象化し、統語的に自立性を弱めた要素としても働く。後者の用法は多岐にわたり、そのため統語的な扱いがきわめて厄介である。

本稿では、上記動詞（V2と略称）の統語的性格を検討するに当たり、考察の対象を、V2が特に多様な意味機能を持って現れる統語環境、すなわちV2に他の動詞（V1）が先行し、V2の直後に名詞句（N）が生起する連鎖から成る述語形式 [V1…V2+ N]（…の位置にはV1の直接補語が後続することもある）に限定し、分析の手がかりとして試験的に4種類の文法テストを用いながら、記述を進めることにしたい¹⁾。

『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第44号（2013）pp.297~315

2. 文法テスト

述語形式 [V1…V2+ N] における V2の意味用法の多様性を、方向動詞の一つ *đến* を例に取って見てみよう。(1) はその用法のいくつかを示した例文である²⁾。

- (1) a. Anh Nam *đến* nhà tôi. ナムさんが私の家に来た。
(ナムさん+着く+家+私)
- b. Tôi gửi thư *đến* chị Mai. 私はマイさんに手紙を送った。
(私+送る+手紙+着く+マイさん)
- c. Anh ấy thường nghĩ *đến* vấn đề chính trị.
(彼+いつも+考える+着く+問題+政治)
彼はいつも政治問題について考えている。
- d. Chị ấy làm việc *đến* sáng. 彼女は朝まで働く。
(彼女+する+仕事+着く+朝)

đến は元来「到着する」という意味の動詞である。(1a) ではその意味で本動詞として働いている。(1b～d) の *đến* は動詞(句) (b. *gửi thư* 「手紙を送る」、c. *nghĩ* 「考える」、d. *làm việc* 「働く」) の後に用いられ、それぞれ動作の受け手、対象、時間的限界点を指定している。(1b～d) の *đến* については、文法化を経て語彙的意味が希薄化し、機能語である前置詞に変化したものとして捉えることができそうに見える。そこで、前置詞とみなすことに異論のないと思われる下記(2)の *với* (相互動作の相手を表す) と(3)の *bằng* (手段を表す) を取り上げて、その振る舞いを4種類の文法テストによって眺めてみよう。

- (2) Tôi nói chuyện *với* bạn. 私は友達と話をした。
(私+話す+話+～と+友達)
- i. Anh đã nói chuyện *với* bạn chưa?
(あなた+〈既然〉+話す+話+～と+友達+〈未完了〉)
あなたはもう友達と話をしましたか。

- *Vâng, tôi đã nói {*với/φ} rồi.* はい、私は話をしました。
 (はい、私 + 〈既然〉 + 話す + {〜と/φ} + 〈完了〉)
- ii. *bạn mà tôi nói chuyện {*với/φ}* 私が話をした友達
 (友達 + 〈関係詞〉 + 私 + 話す + 話 + {〜と/φ})
- iii. *Bạn thì tôi nói chuyện {*với/φ}.* 友達は私が話をします。
 (友達 + 〈主題〉 + 私 + 話す + 話 + {〜と/φ})
- iv. *Với bạn tôi nói chuyện.* 友達とは私は話をしました。
 (〜と + 友達 + 私 + 話す + 話)
- (3) *Tôi đi chợ bằng xe máy.* 私はバイクで市場へ行った。
 (私 + 行く + 市場 + 〜で + バイク)
- i. *Anh có đi chợ bằng xe máy không?*
 (あなた + 〈存在〉 + 行く + 市場 + 〜で + バイク + 〈疑問〉)
 あなたはバイクで市場へ行きましたか。
 — *Vâng, tôi có đi {*bằng/φ}.* はい、私は行きました。
 (はい、私 + 〈存在〉 + 行く + {〜で/φ})
- ii. *xe máy mà tôi đi chợ {*bằng/φ}* 私が市場へ行ったバイク
 (バイク + 〈関係詞〉 + 私 + 行く + 市場 + {〜で/φ})
- iii. *Xe máy thì tôi đi chợ {*bằng/φ}.*
 (バイク + 〈主題〉 + 私 + 行く + 市場 + {〜で/φ})
 バイクは私が市場へ行きます。
- iv. *Bằng xe máy tôi đi chợ.* バイクでは私は市場へ行った。
 (〜で + バイク + 私 + 行く + 市場)

(2 i) (3 i) はイエス・ノー疑問文とその返答を示した文である。この例から、返答文で前置詞だけを残すと容認されないことが分かる。(2 ii) (3 ii) は、前置詞に後続する N を主名詞として関係節化したものである。ここでも前置詞を残すことは許されない。(2 iii) (3 iii) と (2 iv) (3 iv) はいずれも主題化に関するテストである。ベトナム語では、主題となる要素は文頭に位置するのが原則である。(2 iii) (3 iii) は、前置詞句から N のみを取り出し、その後に主題標識 *thì* を続けた「主題 + 叙述」文の適格性を問うものである

が（話し言葉では、thì のかわりに、主題の後にポーズを置くことも可能である）、前置詞だけを残した文は不適格となる。これに対して、Nを伴う前置詞句全体を主題化した（2iv）（3iv）は容認される。以上、vói と bằng に関する限り、それだけでは機能しえないことが観察された。

vói と bằng の振る舞いを確認した上で、(1b～d) の đén に立ち返って、同じテストを適用してみると、それぞれ (4) ～ (6) のようになる。

(4) i. Anh đã gửi thư đén chị Mai chưa?

あなたはもうマイさんに手紙を送りましたか。

— Vâng, tôi đã gửi {đén/φ} rồi. はい、私は送りました。

ii. chị Mai mà tôi gửi thư {đén/φ} 私が手紙を送ったマイさん

iii. Chị Mai thì tôi gửi thư {đén/φ}.

マイさんは私が手紙を送りました。

iv. *Đén chị Mai tôi gửi thư.

(5) i. Anh ấy có thường nghĩ đén vấn đề chính trị không?

彼はいつも政治問題について考えていますか。

— Vâng, anh ấy thường nghĩ {đén/φ}.

はい、彼はいつも考えています。

ii. vấn đề chính trị mà anh ấy thường nghĩ {đén/φ}

彼がいつも考えている政治問題

iii. Vấn đề chính trị thì anh ấy thường nghĩ {đén/φ}.

政治問題は彼がいつも考えています。

iv. *Đén vấn đề chính trị anh ấy thường nghĩ.

(6) i. Chị ấy có làm việc đén sáng không?

彼女は朝まで働きますか。

— Vâng, chị ấy có làm việc {*đén/?φ}.

はい、彼女は働きます。

ii. sáng mà chị ấy làm việc {*đén/φ} 彼女が³働く朝

iii. Sáng thì chị ấy làm việc {*đén/φ}.

朝は彼女が³働きます。

iv. *Đến sáng chỉ ấy làm việc.³⁾

(4iv) (5iv) (6iv) に見るように、「đến+N」を主題化して文頭に置くことはできない。それ以外のテストでは、(4) (5) で N を伴わない đến の使用が可能であるのに対して、(6) ではそれは認められない。(4) (5) において đến を含む表現は、それぞれ (1b) (1c) に対応し、N に動作が到達する意味が表されるが、đến を欠く表現ではその意味は伝わらない。(6 ii、iii) の đến のない表現では、sáng「朝」は làm việc「働く」の時間的限界点ではなく、時間的位置(時点)を表しており、(1d) の意味に対応しない⁴⁾。なお、(6 i) の返答では、Vâng か Có のみで答える、あるいは đến sáng を含めた文で答える、などが自然とされる。

ついでながら、(1c) をそれと意味の近い (7) と比較して見ておこう。

(7) Anh ấy thường nghĩ về vấn đề chính trị.

(彼+いつも+考える+帰る+問題+政治)

彼はいつも政治問題について考えている。

(7) は (1c) の đến を同じく方向動詞の一つである về「帰る」に置き換えた文である。これにも同様のテストを適用すると (8) のようになる。

(8) i. Anh ấy có thường nghĩ về vấn đề chính trị không?

— Vâng, anh ấy có thường nghĩ {*về/φ}.

ii. vấn đề chính trị mà anh ấy thường nghĩ {*về/φ}

iii. Vấn đề chính trị thì anh ấy thường nghĩ {*về/φ}.

iv. Về vấn đề chính trị anh ấy thường nghĩ.

(5) と (8) の違いは明らかである。(8) に見る状況は (2) (3) と並行的である。

これまでの観察をまとめると、次のようになる。前置詞を、どのような統語環境においても必ず名詞句を伴うものとするなら、名詞句を伴わなければ不適格と判断される (7) の về は、(2) の với、(3) の bằng と同様に前置詞と考えることができる。それでは、(1b~d) の đến はどうだろうか。まず (1b) と (1c) の đến は、疑問文に対する返答文、N の関係節化、N の主題化の各テストが示す通り、名詞句が後続しなくても機能する。この事実は、

đến が一定の自立性を保持していることを示唆する。(1b, c) では、動詞としての具体的意味の希薄化が認められるので、V1に対して補助的に用いられていると考えるのが適当であろう。ただし、(1b) と (1c) で *đến* と V1 との結びつき方ならびに結びつきの度合いが同じであるかどうかは、検討の余地がある。そして最後の (1d) の *đến* については、N なしでは生起しえないことから、V1ではなく N との結びつきが強いと考えられる。「V2+ N」の主題化が認められない点では、(2) (3) (8) の状況とは異なるものの、前置詞とみなすことができる。

上で用いた4種類の文法テスト— (i) 疑問文に対する返答文、(ii) N の関係節化、(iii) N の主題化、(iv) 「V2+ N」の主題化—は、V2の統語的性格を探る上で一定の有効性を持つものと思われる。本稿はそのテストの結果を記述の中心に据える⁵⁾。

3. V2の統語的性格

以下では、基本的に、V2が物理的移動を表す用例から始めて、その後に意味の抽象化が見られる用例を取り上げる。

3. 1 đi

đi の本義は、基準とする地点から遠ざかる空間移動を表す。まず (9) を見てみよう。

(9) *Nam chạy đi thư viện.* ナムは図書館に走って行った。

(ナム + 走る + 行く + 図書館)

- i. *Nam đã chạy đi thư viện chưa?*
— *Vâng, anh ấy đã chạy {đi/? φ} rồi.*
- ii. *thư viện mà Nam chạy {đi/ φ}*
- iii. *Thư viện thì Nam chạy {đi/ φ}.*
- iv. **Đi thư viện Nam chạy.*

テスト (i ~ iii) の結果から、*đi* が N を伴わずに生ずることが確認される。

このことは *đi* と V1 との結びつきを示唆するが、その結びつき方は必ずしも明らかにならない。つまり、構造的には少なくとも [[*chạy*] [*đi thư viện*]] と [[*chạy đi*] *thư viện*] の 2 通りの可能性があるからである。前者は *chạy*「走る」と *đi thư viện*「(行く + 図書館) 図書館へ行く」の 2 つの動詞 (句) が連続する動詞連続構造で、*đi* は動詞の資格を有するが、後者は *chạy* と *đi* が複合動詞的な結合を形成し、その後に補語の *thư viện* を伴う構造で、*đi* は *chạy* に対して補助的に働くことになる。(9) が *đi* を動詞として用いた *Nam đi thư viện bằng cách nào?*「ナム + 行く + 図書館 + ~で + 方法 + どの) ナムはどうやって図書館に行きましたか」という疑問文の答えとして成立する点は、前者の解釈を支持する根拠になりうるかもしれないが、本稿では結論を保留しておくことにする⁶⁾。なお、(9 ii、iii) では *đi* のない表現も適格と判断されるが、その場合の N は「ナムが走る場所」を表し、(9) の意味は保持されないので、(9) に対応する表現とは考えない。

đi に後続する N は、V1 の主体の移動先だけでなく、V1 の対象の移動先を表すこともある。

(10) *Nam gửi sách đi nước ngoài.* ナムは外国へ本を送った。

(ナム + 送る + 本 + 行く + 外国)

i. *Nam đã gửi sách đi nước ngoài chưa?*

— *Vâng, anh ấy đã gửi {đi/φ} rồi.*

ii. *nước ngoài mà Nam gửi sách {đi/φ}*

iii. *Nước ngoài thì Nam gửi sách {đi/φ}.*

iv. **Đi nước ngoài Nam gửi sách.*

(10) では、*gửi*「送る」の対象 (*sách*「本」) の移動先が *đi* に後続している。(10 i ~ iii) において、*đi* は (9) の場合と同じように、N を伴わなくても機能する。意味的に見ても、(10) に対応するのは *đi* のある表現である ((10 ii、iii) で *đi* が不在場合には、*nước ngoài*「外国」は「本を送る行為を行った場所」とも解釈される)。したがって、(10) の *đi* には一定の自立性が認められるのであり、完全に機能語 (前置詞) 化しているとは言い難い。この用法の *đi* が移動先として場所名詞しか取らないことも、本動詞の *đi* の性質

を受け継ぐものである。(10) の *đi* は、V1の補助的要素として働いていると考えられる。

次の(11)では、空間性の意味が失われ、V1が含む変化の意味に方向性を付加する働きが認められる。

(11) *Nam phá đi ti-vi này.* ナムはこのテレビを壊した。

(ナム+壊す+行く+テレビ+この)

- i. *Nam có phá đi ti-vi này không?*
— *Vâng, anh ấy có phá {đi/φ}.*
- ii. *ti-vi mà Nam phá {đi/φ} này*
- iii. *Ti-vi này thì Nam phá {đi/φ}.*
- iv. **Đi ti-vi này Nam phá.*

この用法における *đi* の方向性とは、現在の状態から別の状態への完全なる移行である。*đi* と共起する V1には制限があり、(11) の *phá* 「壊す」のほか、*bỏ* 「捨てる」、*xóa* 「消す」、*quên* 「忘れる」、*mất* 「なくなる」など、消滅、消失の意味合いを持つ動詞と適合する。V1との一体性が強く、(10) の *đi* と比べて V1の補助的要素としての性格がさらに顕著である。V1と *đi* が複合動詞を形成しているとみなしてよさそうである⁷⁾。

(9) ~ (11) に対する4種類のテストは同じ結果を示している。V1と *đi* の結びつき方は一様ではないものの、V1との結びつきは明らかである。

3.2 *đến*

đến は到着点に視点を置いた空間移動(到着)を本義とする。例として(12)を挙げておこう。

(12) a. *Nam chạy đến thư viện.* ナムは図書館に走って行った。

(ナム+走る+着く+図書館)

b. *Chim bay đến hòn đảo đó.* 鳥はその島に飛んで行った。

(鳥+飛ぶ+着く+〈類別詞〉+島+その)

これらの文における *đến* も、(9) の *đi* と同様に、(i) ~ (iii) のテストで N を伴わずに現れることが可能であるが、V1との結びつきについては(9)

の *đi* の場合と同じ問題が残る。

(13) では移動の動きが *N* に到達することが表されるが、移動主体は抽象物である。(13 i ~ iii) では *đến* がなければ不自然である。

(13) *Phật giáo truyền bá đến nước láng giềng.* 仏教は隣国に伝わった。

(仏教 + 伝播する + 着く + 隣国)

- i. *Vâng, Phật giáo có truyền bá {đến/?} φ.*
- ii. *nước láng giềng mà Phật giáo truyền bá {đến/?} φ*
- iii. *Nước láng giềng thì Phật giáo truyền bá {đến/?} φ.*
- iv. **Đến nước láng giềng Phật giáo truyền bá.*

テストから *V1* との結びつきが確認されるが、*đến* の動詞的意味が薄まっていることから、*V1* の補助的要素と考えておくことにする。

V1 の対象が到着点へ移動することを表す例は (1b) に挙げた通りであるが、それと (12a, b) の *đến* との間には (14) に見られるような違いがある。

(14) a. *Tôi đã gửi thư đến chị Mai rồi, nhưng chưa đến.*

(私 + 〈既然〉 + 送る + 手紙 + 着く + マイさん + 〈完了〉、しかし + 〈未完了〉 + 着く)

私はもうマイさんに手紙を送ったが、まだ着いていない。

b. **Nam đã chạy đến thư viện rồi, nhưng chưa đến.*

(ナム + 〈既然〉 + 走る + 着く + 図書館 + 〈完了〉、しかし + 〈未完了〉 + 着く)

*ナムはもう図書館に走って行って着いたが、まだ着いていない。

c. **Chim đã bay đến hòn đảo đó rồi, nhưng chưa đến.*

(鳥 + 〈既然〉 + 飛ぶ + 着く + 〈類別詞〉 + 島 + その + 〈完了〉、しかし + 〈未完了〉 + 着く)

*鳥はもうその島に飛んで行って着いたが、まだ着いていない。

(14a) は意味的な矛盾を生じないが、(14b, c) はそうではない。この容認可能性の違いには、前者の *đến* が機能語に傾いているのに対して、後者の *đến* は動詞性を保ち、*V1* と緊密に結びついていることが関係している。

đến が空間性を含意せず、動作が対象に到達するという方向性の意味に転

用された例には、(1c) の類例として挙げられる (15) のようなものもある。

(15) a. Nam nói *đến* vấn đề chính trị.

(ナム + 話す + 着く + 問題 + 政治)

ナムは政治問題について話した。

b. Nam quan tâm *đến* lịch sử Việt Nam.

(ナム + 関心を持つ + 着く + 歴史 + ベトナム)

ナムはベトナムの歴史に関心を持っている。

(15) の *đến* も、(1c) と同じように、(i ~ iii) のテストで N なしの形で現れることから、V1の補助的要素と考えられる。なお、(15) の *đến* を前置詞 *về* 「～について」に置き換えた文も適格であるが、その場合の *về* の振る舞いは (8) と同じである。

ここに掲げた *đến* の用例に関する限り、動詞性に程度差はあるものの、V1との結びつきを形成していると考えられる。

3.3 *về*

về は元いた場所への空間移動 (帰着) を本義とする。次の例はその意味で用いられている。

(16) Nam chạy *về* nhà. ナムは走って家に帰った。

(ナム + 走る + 帰る + 家)

移動の様態を表す V1と移動とその方向性を表す V2が一体となった表現である。

(17) は V1の対象の移動を表す例である。

(17) Nam gửi thư *về* quê. ナムは故郷に手紙を送った。

(ナム + 送る + 手紙 + 帰る + 故郷)

この *về* も、本動詞の *về* と同じく、主語が元いた場所を表す名詞句が後続する。テスト (i ~ iii) の結果は、N を伴わない *về* の生起を許す。V1の意味を補足する要素と考えられる。

次の文では、空間性の意味が失われている。

(18) Nam nhớ *về* quê. ナムは故郷を懐かしく思った。

(ナム + 思う + 帰る + 故郷)

(18) の về も、テスト (i ~ iii) で N を伴わない形で残ることから、前置詞ではなく、V1の補助的要素として、V1と結合して複合動詞を形成していると見ることができる。

次の (19) の về には方向性の意味が強く感じられる。

(19) a. Nhà Nam hướng về phía bắc. ナムの家は北向きだ。

(家 + ナム + 向く + 帰る + 北方)

i. Nhà Nam có hướng về phía bắc không?

— Vâng, nhà anh ấy có hướng {? về / ?? φ}.

ii. phía bắc mà nhà Nam hướng {? về / φ}

iii. Phía bắc thì nhà Nam hướng {? về / * φ}.

iv. *Về phía bắc nhà Nam hướng.

b. Nam thuộc về ủy ban giáo dục. ナムは教育委員会に属している。

(ナム + 属する + 帰る + 委員会 + 教育)

(19a, b) とも、テストの結果は同じである。この用法の về が統語的に曖昧な位置にあることが知られる。

3. 4 lên

lên の本義である、下方から上方への空間移動（上昇）を表す例から見よう。(20) は主体の移動である。

(20) a. Nam chạy lên gác. ナムは上階へ駆け上がった。

(ナム + 走る + 上がる + 上階)

b. Nam nhảy lên bàn. ナムは机に跳び上がった。

(ナム + 跳ぶ + 上がる + 机)

lên はそれ自体上方への移動の意味を含む動詞とも共起する。

(21) a. Nam đứng lên ghế. ナムは椅子に立った。

(ナム + 立つ + 上がる + 椅子)

b. Dầu nổi lên mặt nước. 油が水面に浮かんだ。

(油 + 浮かぶ + 上がる + 水面)

lên によって、上方への動きの意味が添えられる。複合動詞の構成素と考えられる。

V1の対象の空間移動を表す例には、(22) のようなものがある。

- (22) a. Nam để sách lên bàn. ナムは本を(持ち上げて)机に置いた。
(ナム+置く+本+上がる+机)
- b. Nam chất hành lý lên xe. ナムは車に荷物を積んだ。
(ナム+積む+荷物+上がる+車)

下方から上方への移動の意味は、様々な意味拡張をもたらす。

- (23) a. Quân đội tiến lên thủ đô. 軍隊は首都へ進軍した。
(軍隊+進む+上がる+首都)
- b. Nam được thăng chức lên trưởng phòng. ナムは室長に昇進した。
(ナム+得る+昇進する+上がる+室長)
- c. Nam dâng lễ vật lên vua. ナムは王に贈り物を捧げた。
(ナム+捧げる+贈り物+上がる+王)

(23a) では中心地への移動、(23b) では地位の上昇、(23c) では上位者への授与行為に転用されている。

上掲の例文(20)～(23)にテスト(i、ii、iii)を適用した結果は、等しくNを伴わないlênの生起が可能であることを示す。(21)～(23)のlênもV1の補助的要素として位置づけることができる。

3.5 xuống

xuống は下方への空間移動(下降)を本義とする。

- (24) a. Nam chạy xuống tầng một. ナムは一階へ駆け下りた。
(ナム+走る+下りる+一階)
- b. Nam nhảy xuống sông. ナムは川に飛び降りた(飛び込んだ)。
(ナム+跳ぶ+下りる+川)

(25) は、それ自体下方への動きを含意する動詞に xuống が付いた例である。

- (25) a. Thuyền chìm xuống sông này. 船はこの川に沈んだ。
(船+沈む+下りる+川+この)

- b. Nam ngã *xuống* mặt đường. ナムは道に転んだ。
 (ナム+転ぶ+下りる+路面)
- c. Nam ngồi *xuống* ghế. ナムは椅子に座った。
 (ナム+座る+下りる+椅子)
- d. Nam nằm *xuống* giường. ナムはベッドに横になった。
 (ナム+横たわる+下りる+ベッド)

この場合、*xuống* は V1 に下方への動きの意味を添え、一体となって機能する。

V1 の対象の移動を表す例には、次のようなものがある。

- (26) a. Nam thông gàu *xuống* giếng. ナムは井戸に汲み桶を下した。
 (ナム+垂らす+汲み桶+下りる+井戸)
- b. Nam ném đá *xuống* sông. ナムは川に石を投げた。
 (ナム+投げる+石+下りる+川)
- c. Nam bỏ rác *xuống* ven đường. ナムは道端にごみを捨てた。
 (ナム+投げる+ごみ+下りる+道端)

(24)～(26) の *xuống* は、テスト (i～iii) で N のない形で残る。少なくとも (25) (26) では V1 の補助的要素として働いていると言える。

3.6 vào

vào は内部への空間移動を本義とする。

- (27) Nam chạy *vào* nhà. ナムは家に駆け込んだ。
 (ナム+走る+入る+家)

V1 の対象の移動を表す例には、次のようなものがある。

- (28) Nam nhốt con *vào* phòng. ナムは部屋に子供を閉じ込めた。
 (ナム+閉じ込める+子供+入る+部屋)

V1 に内部への方向性の意味を付加している。(i～iii) のテストでは *vào* は N を伴わずに残りうる。(28) の類例には、述語のみを挙げるならば、*thọc tay vào túi áo* 「(突っ込む+手+入る+ポケット+服) 服のポケットに手を突っ込む」、*nap đạn vào súng* 「(こめる+弾+入る+銃) 銃に弾をこめる」、

đơm khuy vào áo 「(縫い付ける + ボタン + 入る + 服) 服にボタンを付ける」、
 dán tem vào phong bì 「(貼る + 切手 + 入る + 封筒) 封筒に切手を貼る」、
 tẩm thuốc vào bông 「(しみこませる + 薬 + 入る + 綿) 綿に薬をしみこませる」、
 viết tên vào lá thư 「(書く + 名前 + 入る + 〈類別詞〉 + 手紙) 手紙に名前を書き込む」などがある。

次の例では、vào はなくても適格であるが、vào を付加することで、動きが N (立体空間ではないが) に入り込む意味が強く表現される。

(29) Nam {đụng/dựa/sờ/cắn} vào cái cột.

(ナム + {ぶつかる / 寄りかかる / 触る / かみつく} + 入る + 〈類別詞〉 + 柱)

ナムは柱に {ぶつかった / 寄りかかった / 触った / かみついた}。

上記 (28) (29) とともに、(i ~ iii) のテストで N を伴わずに vào が生起することが許されることから、V1 の補助的要素と解釈することができる。

次の (30) では状況が若干異なる ((29) 同様、vào はなくてもよい)。

(30) a. Nam tin vào Mai. ナムはマイを信じ込んでいる。

(ナム + 信じる + 入る + マイ)

i . Vâng, anh ấy có tin {?vào/φ}.

ii . Mai mà Nam tin {vào/φ}

iii . Mai thì Nam tin {vào/φ}.

iv . *Vào Mai Nam tin.

b. Nam nhờ cậy vào Mai. ナムはマイを頼っている。

(ナム + 頼る + 入る + マイ)

c. Nam kỳ vọng vào sự thành đạt của Mai.

(ナム + 期待する + 入る + 出世 + ~の + マイ)

ナムは子供の出世を期待している。

(30) は心理動詞を V1 とする例で、vào の意味も抽象度が高い。いずれの文も、テスト (i) での vào の使用は自然ではない ((30b, c) では、テスト (iii) による vào の残留も不自然とされる)。vào の自立性の不安定さが見て取れる。

3.7 ra

ra は内部から外部への空間移動を本義とする。(31)はその例である。

(31) a. Nam chạy ra sân. ナムは庭に駆け出した。

(ナム + 走る + 出る + 庭)

b. Nam quét rác ra sân. ナムは庭にごみを掃き出した。

(ナム + 掃く + ごみ + 出る + 庭)

それぞれ V1の主体、V1の対象の移動を表しており、テスト (i ~ iii) で ra は N の後続なしに現れる。

次の (32) は、内から外への空間移動の意味が顕在化の意味に抽象化した例である。

(32) a. Nam tìm ra chìa khóa. ナムは鍵を探し出した。

(ナム + 探す + 出る + 鍵)

b. Nam nhớ ra Mai. ナムはマイを思い出した。

(ナム + 思う + 出る + マイ)

ものが広がること、分かれることへの拡張も見られる。

(33) a. Nam trải bản đồ ra bàn. ナムは机に地図を広げた。

(ナム + 広げる + 地図 + 出る + 机)

b. Nhóm đó phân ra bốn phe. そのグループは4派に分かれた。

(グループ + その + 分かれる + 出る + 4 + 派)

c. Nam chia quít ra hai phần. ナムはみかんをふたつに分けた。

(ナム + 分ける + みかん + 出る + 2 + 部分)

i. Vâng, anh ấy đã chia {ra/φ} rồi.

ii. hai phần mà Nam chia quít {*ra/*φ}

iii. Hai phần thì Nam chia quít {*ra/*φ}.

iv. *Ra hai phần Nam chia quít.

(33c) の (ii、iii) は意味的不整合のため容認されないが、(i) の ra は V1との結合を示している。結論を保留した (31a) を除き、ra は V1の補助的要素とみなすことができる。

3.8 sang

sang は隔てるものを越えて他方の側へ移動することを本義とする。

(35) Nam bơi *sang sông này*. ナムはこの川を泳いで渡った。

(ナム + 泳ぐ + 渡る + 川 + この)

(35) の sang も、これを動詞として扱うかどうかは、検討の余地がある。

V1の対象（具体物）の移動を表す用法も存在する。

(36) a. Nam gửi sách *sang nước ngoài*. ナムは外国に手紙を送った。

(ナム + 送る + 本 + 渡る + 外国)

b. Nam ném đá *sang vườn*. ナムは庭に石を投げた。

(ナム + 投げる + 石 + 渡る + 庭)

c. Nam chuyển tủ áo *sang phòng bên cạnh*.

(ナム + 移動させる + たんす + 渡る + 隣の部屋)

ナムは隣の部屋にたんすを移した。

(36a~c) では (i ~ iii) のテストで N を伴わない sang が容認される。一定の動詞性を保持しながら、V1の補助的要素として働いていると捉えたい。

次の (37) の sang は、(36) と異なり、主体の部分的位置変化を表す。テストに基づく限りでは、その統語的位置づけは明確には定まらない。

(37) Nam nghiêng đầu *sang bên trái*. ナムは頭を左に傾けた。

(ナム + 傾ける + 頭 + 渡る + 左側)

i. Vâng, anh ấy đã nghiêng đầu {*?sang/φ*} rồi.

ii. bên trái mà Nam nghiêng đầu {*sang/φ*}

iii. Bên trái thì Nam nghiêng đầu {**sang/*φ*} rồi.

iv. **Sang bên trái* Nam nghiêng đầu.

(37 ii) で sang の残留が可能であるのに対して、(37 i、iii) では sang だけを残すと不自然になり、その自立性は必ずしも安定していない。範疇化の難しさを物語る例の一つである。

3.9 cho

cho は元来「与える」を意味する動詞である。この語が [V1…cho + N] として現れる例として (38) を見よう。

(38) Nam gọi điện *cho* bạn. ナムは友達に電話した。

(ナム + 電話する + 与える + 友達)

- i. Vàng, anh ấy đã gọi điện {*cho/φ*} rồi.
- ii. bạn mà Nam gọi điện {*cho/φ*}
- iii. Bạn thì Nam gọi điện {*cho/φ*}.
- iv. *Cho* bạn Nam gọi điện.

(38) の述語は、通常の解釈では単に「友達に電話した」ことを表すが、コンテキストによっては「友達のために電話した」という恩恵の意味も表しうる。つまり、N (bạn「友達」) は受領者と受益者の2つの意味役割を持っているわけである。この2通りの解釈は、(i ~ iii) における cho の有無とも関係しており、cho がない場合には前者の意味になり、cho がある場合には後者の意味になる(「cho + N」の主題化表現 (38iv) は、恩恵の意味で用いられる)⁸⁾。このような解釈を許すのは、基本的に V1 が授与の意味を持つ(広い意味で対象の移動を表す)ものであり、その例としては (38) の gọi điện のかわりに gửi thư「(送る + 手紙) 手紙を送る」、bán tivi「(売る + テレビ) テレビを売る」、kể sự thật「(語る + 事実) 事実を語る」、day tiếng Việt「(教える + ベトナム語) ベトナム語を教える」、để lại tài sản「(残す + 財産) 財産を残す」などが用いられたものが挙げられる。

次の (39) のように V1 が授与の意味を表さず、受領者を要求しない動詞である場合には、恩恵の意味しかなく、(39 i ~ iii) では cho が残ることになる。

(39) Nam lái xe *cho* bạn. ナムは友達のために車を運転した。

(ナム + 運転する + 車 + 与える + 友達)

- i. Vàng, anh ấy có lái {*cho/φ*}.
- ii. bạn mà Nam lái xe {*cho/*φ*}.
- iii. Bạn thì Nam lái xe {*cho/*φ*}.
- iv. *Cho* bạn Nam lái xe.

逆に、述語の意味内容から恩恵性の読みが得られないこともある。この場合、どのテストにおいても *cho* は残らない。

(40) *Nam gây rắc rối cho bạn.* ナムは友達に迷惑をかけた。

(ナム + 起こさせる + 面倒な + 与える + 友達)

i. *Vâng, anh ấy có gây rắc rối {*cho/φ}.*

ii. *bạn mà Nam gây rắc rối {*cho/φ}*

iii. *Bạn thì Nam gây rắc rối {*cho/φ}.*

iv. **Cho bạn Nam gây rắc rối.*

(40 i ~ iii) では、*cho* のない表現が適格となる。これは V2 の位置に前置詞が生ずる場合と似た状況である。

以上のように、*cho* は恩恵性の意味を帯びる場合とそうでない場合がある。前者を V1 の補助的要素、後者を前置詞とする見方も含めて、*cho* の統語的位置づけを検討する必要があるだろう。

4. おわりに

本稿は、述語形式 [V1…V2 + N] における V2 の統語的性格を決定する手がかりを得るために、形式的な基準として 4 種類の文法テストを用いたが、品詞や言語単位の認定に関して定まった結論を提示するには至らなかった。さらに新たな基準や観点の導入が求められる。この述語形式は、動詞が連続する形式の一つのタイプとして捉えられる。複数個の動詞が相互の関係を表す標識なしに連続して現れる形式について、V1 と V2 がどのような統語関係で、どのような単位を成して結びついているかは、この種の形式を多用する孤立型言語の最大の課題である。本稿が取り上げた問題もその議論に組み込まれるべきものである。

注

1) 本稿は、各動詞の用法を網羅的に扱うものではない。用例の多くは、春日、清水 (2013) から採った。

- 2) 用例のグロスは、複数の語に対応することもある。V2のグロスは、その用法のいかんを問わず、動詞としての基本的意味を記した。
- 3) この文に mới 「～してはじめて」を加えて、Đến sáng chị ấy mới làm việc. とすると、自然になるが、その意味は「彼女は朝になってから働く」となり、(1d) に対応しない。
- 4) テスト (ii, iii) の結果として掲げた表現において、V2を欠くもの (φ) は、V2が前置詞と認定される場合を除き、基本的に元の文に対応しない。適格性の判定は、その表現自体について記したものである。
- 5) 疑問文に対する返答文テスト (i) では、優先的に① A đã ~ chưa? 「A はもう～しましたか」—Vâng, A đã ~ rồi. 「はい、もう～しました」を用い、それを用いると座りが悪い場合に、② A có ~ không? 「A は～ {しました/します} か」—Vâng, A có ~. 「はい、{しました/します}」を用いた。
- 6) 例文 (9) と並行的な例文は (12) (16) (20) (24) (27) (31a) に登場する。これらについても、同様の問題が存在する。また、方向動詞を動詞として用いた、移動の方法を尋ねる疑問文に対する答えとして適格である点もこれらの例文に共通する。なお、これ以降、文法テストの結果内容は適宜省略する。
- 7) 本稿では、先行する動詞 (V1) と何らかの結びつきを形成し、その動詞の意味を補足する要素に対して、便宜的に「補助的要素」という呼称を用いる。それには複合動詞の構成素となるものをはじめ、様々なものが含まれるであろう。本稿では、複合動詞という用語も明確に定義せずに使っているが、その定義づけや分類は今後の課題である。
- 8) この表現は、「cho + N」の後にポーズを置いて発音される。

参考文献

- 春日淳、清水政明. 2013. 「ベトナム語の動詞句」『東南アジア大陸部諸言語の動詞句』慶應義塾大学言語文化研究所.
- Clark, Marybeth. 1978. *Coverbs and case in Vietnamese*. Canberra: The Australian National University.
- Nguyễn Đình-Hoà. 1997. *Vietnamese*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- Nguyễn Kim Thán. 1977. *Động từ trong tiếng Việt*. Hà Nội: Nhà xuất bản khoa học xã hội.

〔謝辞〕 本稿作成に当たり、ベトナム語インフォーマントとして、Vũ Đăng Khuê 氏 (1952年旧ハソンビン省生まれ、男性) にご協力いただいた。ここに記して謝意を表したい。